

Weekly Michael's News

2018年4月16日発行 No.65

<今週の聖句>

『イエスは、「ここに何か食べ物があるか」と言われた。そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。』 (ルカによる福音書 第24章42節)

<50年目を迎えるKIUは一味違う!? 学生の活躍にチャペルも負けてられない!!>

先週のチャペル通信で、体育会クラブの壮行礼拝をお伝えしましたが、それぞれのクラブが大会等で大活躍しています!! ハンドボール部は、甲南大、大阪大、京都大にそれぞれ勝利し現在リーグトップを爆走中!! 野球部は開幕戦のvs 兵庫大で8回コールド勝ち!! そしてサッカー部にいたっては大成大、大工大にいずれも10点以上の差をつけての圧勝となっています!! また、クラブだけでなく学生会主体の挨拶&クリーンアップ運動にも30名近い学生が参加(去年は4名とかだったのですが…汗)、昼の礼拝が始まったチャペルも1年生がたくさん出席してくれて活況です!! 先週は4月生まれの誕生祝福を行い前田理事長からお祈りをさせていただきました。やはり50周年となる今年は、勢いが違う!? 皆さんの活躍をチャペルからお祈りしています!!



額に祝福の十字を刻む前田理事長

<グローバル・コミュニケーションを実現する大切な出会い。国際別科の入学式を挙行!!>

先週の土曜日、チャペルでは「もう一つの入学式」が行われました。神戸国際大学は様々な国の留学生を受け止めていますが、その中で専門分野の研究に欠かせない高いレベルの日本語を学ぶ「国際別科」があります。そこに中国から3名、ベトナムから5名、タイから8名、フィリピンから1名、計17名の留学生が入学しました。下村学長は、その式辞の中で「文化の違い等で戸惑う事があるかもしれないが、その違いにこそ留学の意味がある、積極的な姿勢で学びのチャンスを生かして欲しい」と、一人ひとりの目を見つめながらメッセージを語られました。世界では大きな戦争につながりそうなニュースが報じられていますが、その中であって、このように留学生を迎えられる事は、大切な平和の架け橋でもあるように思います。今回入学された留学生のみなさん、本当におめでとうございます!! 皆さんの学びの上に、主の祝福と導きが豊かにあるよう心から祈ります!! キリスト教センターにも遊びに来てね~(^o^)/”



少々緊張気味の留学生たち?



歓迎の祝辞を優しく語る下村学長



素晴らしい天気の下で記念撮影

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

4月9日(月) テーマ:「50年目の歩み出し」 野間 光顕(チャプレン)

4月を迎え、通勤で使う電車の中には、新入生や新入社員らしき人の姿が多く見られる。KIUも先週金曜日に入學式を行い経済学部337名、リハ学部76名、計413名を迎える事ができた。その少し前、月曜日に教職員を対象に始業礼拝・新任教職員就任式が行われ、多くの教職員がチャペルに集い、心を一つに祈る時を持った。奨励を担当された前田理事長は、神から与えられた命を軸とし、感謝と謙虚さを自分の土台に据える事の重要性を改めて確認された。記念すべき50年目を迎えたKIU、集う学生・教職員一人ひとりが有意義な学びを積み重ねられるように、キリスト教センターは全力を尽くしていきたい。

4月10日(金) テーマ:「心機一転」 前田 次郎(理事長)

今日の聖書箇所(ローマ12:4~)を大学創立者の八代斌助師父は簡潔にまとめ、建学の精神として「神を畏れ 人を恐れず 人に仕えよ」と表わされた。私たちの集う社会は、今この時も様々な問題で溢れているが、それらを解決するヒントが、この「仕える」という言葉に表されている。先程、学内のクリーンアップ運動に参加している学生・教職員が落ちているゴミを丁寧に拾っていた。このような小さな行動であっても「仕える」生き方を通して一人ひとりに必要な学びが備えられている。新学期を迎えた今、心機一転、各自の業に励んで欲しい。

4月11日(水) テーマ:「門を叩きなさい」 八代 智(学院長)

アメリカはMLBで大谷翔平選手が大活躍をしている。キャンプやオープン戦では、目立った結果が出ず、新聞やマスコミから酷評を受けたが、シーズンが始まると目覚ましい成績を残し全米を驚かせている。特に、アメリカのスポーツ記者ジョセフ氏はこう語る「彼はプレーだけでなくそのハート、精神力が素晴らしい。記者会見でも精神的成熟が見られる。」彼は、学生時代から目標を達成するために、必要な条件を細分化し、具体的な言葉で表現してきた。また両親の謙虚な教育の姿勢も注目が集まっている。新学期、新しい挑戦に向けて門を叩こう。

4月12日(木) テーマ:「『建学の精神』の大切さ」 近藤 剛(キリスト教センター長)

本学図書館の入り口に上部に、旧約聖書の言葉が掲げている。「主を畏れることは知恵の初め。」(箴言1:7)という言葉だ。この言葉は、そのまま本学の建学の精神「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」とも密接にリンクしている。「神を畏れる」とは、神の偉大さを認識することによって、自分自身の限界をわきまえる、そしてそれによって物事を正しく判断する基準を持つ事につながる。新しい年度を迎え、それぞれが新しい歩みを始めている。その時こそ、今一度この世界を全て司っておられる大きな存在に対する「畏れ」から謙虚に歩みを進めたい。

4月13日(金) テーマ:「Lean In」 下村 雄紀(学長)

「Lean In」とは、Googleでオペレーション担当副社長、財務省首席補佐官を歴任し、現在Facebookの取締役を勤めるシェリル・サンドバーグの著書タイトルだ。この書の最後に書かれている言葉をぜひ紹介したい。「子ども達には、望む事をして欲しい。自分の本当にしたい事を見つけたら、大きく一歩を踏み出し、そして進み続けて欲しい、いつまでも。」

この「一歩踏み出す」が英語で“Lean In”という表現である。個人が自立するには、個を創造するための、自分が思い描く「個」になるための「一歩」こそが大切となる。親や教職員はその手助けをするに過ぎない。大切な一歩を踏み出すのは、己の足でしか叶わない。学問の素晴らしさは、生き絶えるその時まで自己の可能性を発見させてくれることである。皆さんも、願う自分を構築するために、今日から“Lean In”していこう。 (文責:野間 光顕)